樋爪館
比爪館
肥爪館
火爪館

ひづめだて

２０２０．６．２５
第１０８号
樋爪館懇話会

事務局　〒028-3310 紫波町日詰駅前1-10-2赤石公民館内 Tel 019-676-3999　会長 高橋敬明 Tel 090-3125-3776

＊ 月例会や講演会が中止となり少なくなった情報共有の場を補うため、今月は６頁の特別号としました。

― 岩手県立博物館テーマ展『比爪ーもう一つの平泉ー』パンフレット ― 20頁

3　比爪ー奥州藤原氏第二の拠点ー　③ 外縁遺跡

≪高田館跡〔矢巾町大字高田字北田〕(2)≫

高田館付近の国道４号は、南方約２kmに所在する徳丹城との位置関係から、概ね古代東山道以来のルートを踏襲していると考えられます（奥州藤原氏の時代には奥大道）。また北上川の旧河道が分流となり、高田館付近に流れていた可能性が高く、川湊としても適した立地と想定できます。このように、高田館跡は、陸上の幹線道路と北上川水運の交錯する交通の要衝に位置していることになります。

高田館跡は比爪館からみると、概ね真北の方位で、直線10.3kmの距離に位置します。比爪館とは同じ幹線道路（奥大道）沿いの距離的に近い位置関係にあり、両者の深い関係が推測されます。

≪≪≪　７月～８月行事予定のお知らせ　≫≫≫

７ 月　１日 （水曜日）	**第１回赤石公民館 樋爪館入門講座 （協力事業）**	桜町中屋敷遺跡発掘調査現地見学研修 9:00～ 9:15 赤石公民館集合・受付 9:20～ 9:40 概要説明「樋爪館跡の発掘調査」 10:00～11:30 桜町中屋敷遺跡 現地見学研修 ※　お問合せ先／赤石公民館019－676－3999
７ 月１５日 （水曜日）	**第111回 月 例 発 表 会**	午後７時から午後９時まで 会場　赤石公民館 講義室 発表者 ： 高 橋 敬 明 テーマ「 比爪館遺跡の溝跡 」 発表者 ： 宮　　良 男 テーマ「 日本の仏教 ９ 」
７ 月２９日 （水曜日）	**第２回赤石公民館 樋爪館入門講座 （協力事業）**	北条館遺跡発掘調査現地見学研修 9:00～ 9:15 赤石公民館集合・受付 9:20～10:00 概要説明「北上川西岸の遺跡」 10:30～11:30 北条館遺跡 現地見学研修 ※　お問合せ先／赤石公民館019－676－3999
８ 月１９日 （水曜日）	**第112回 月 例 発 表 会**	午後７時から午後９時まで 会場　赤石公民館 講義室 発表者・テーマ ： 未定

※　五郎沼古代ハスまつり協賛の案内所開設については、７月９日(木)に開催する第２回運営委員会で協議、決定することになっています。

★　赤石小学校６年生社会科校外学習に協力

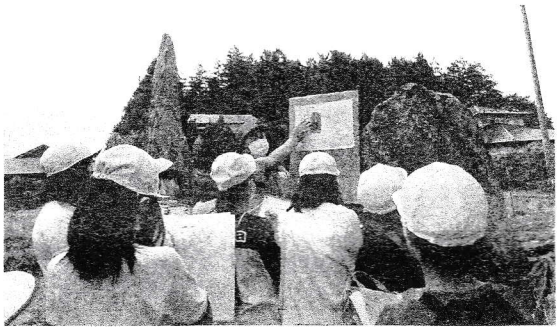
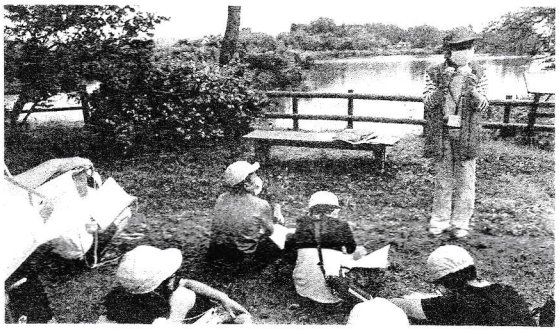
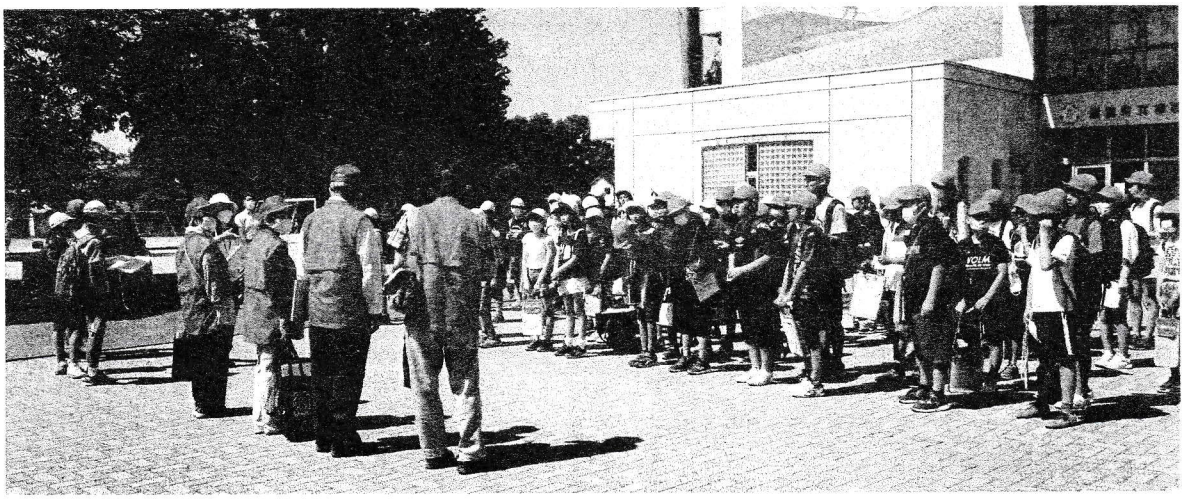
６月10日㈬と16日㈫に赤石小学校６年生の社会科校外学習が行われました。協力要請を受けたことに感謝しながら、本会の出前講座事業に位置づけ案内人部会が対応することとし、高野修部会長が打合せとスタッフの調整に当たり、生徒に渡す資料も作成しました。

10日はスクールバス２台で、町指定史跡の高水寺城跡と陣ヶ岡陣営跡を見学し、16日は４班に分けて樋爪館跡・五郎沼周回コースを徒歩で見学する計画、実施に協力しました。

生徒さんの熱心にメモをとる姿。説明を聞くときの目の輝き。やはり赤石の子どもたちは素晴らしい。と、感動しながら、小学６年生が興味をもち、分かってもらえる説明に配意しましたが、とても貴重な経験となりました。先生方の事前指導と当日の適切なご配慮により、何とか私共の役割りを全うすることができたと思います。

なお、熊谷次雄さんが二日とも説明を担当し、日の輪・月の輪形の土手の道の草刈も行うなど奮闘してくれました。二日間のスタッフと担当業務は次のとおりです。

１０日　バス添乗　１号車：高橋敬明、大沢斗志子　２号車：高野　修、櫻井早苗
　　現地説明　①高水寺城跡：石幡 信　②陣ヶ岡陣営跡：熊谷次雄
１６日　全体学習　全体学習「樋爪館の背景」（体育館）　高野　修
　　ゾーン学習　①樋爪館：高橋敬明　②石卒都婆：熊谷次雄　③古代蓮：櫻井早苗
　　④経塚：高野　修

★　史跡・遺跡等の所在地を示す標柱の設置が２７箇所に

紫波町観光交流協会歴史遺産委員会(委員長高橋敬明)が、平成26年度から取り組んできた紫波町内の史跡や遺跡などの所在地を示す標柱の設置は昨年度で27箇所になりました。この事業は、観光交流協会の予算と地域住民の皆様からいただく協賛金(一口１万円)を合わせて実施していますが、本年度も４～６箇所程度の設置計画が検討されています。

★　樋爪会会長樋爪憲三氏が「いわての学び希望基金」に寄付

東日本大震災とコロナのダブルパンチで、大変な思いをしている岩手の被災地の子どもたちのために役立ちたいと、樋爪会会長樋爪憲三氏が「いわての学び希望基金」に１０万円を寄付されました。寄付金を託された高橋敬明会長が、県ふるさと振興部に届けた際に取材をうけた記事が、５月31日づけ盛岡タイムスの１面トップに掲載されました。

★　樋爪会が活動を開始

樋爪会の活動第１弾として、事務局から次の文に添え資料等が会員に配られました。

□　コロナ･コロナでの自粛疲れのこの頃です。

しばし能登に目を向けていただき、能登で生きて来た樋爪一族の歴史を見て頂ければと思います。

能登では、「能登はやさしさ土までも」　と言われ、能登人気質を表しています。

何か岩手県人とも通じるものを感じます。

□　石川県の樋爪姓の家族数とその流れにについて（電話帳による）

穴水町〈9〉 → 七尾市〈11〉 → 金沢市〈11〉 → 能美市 小松市 加賀市〈9〉

穴水町〈9〉 → 金沢市〈11〉 → 能美市 小松市 加賀市〈9〉

穴水町〈9〉 → 能美市 小松市 加賀市〈9〉

多くの家族は南へと移住していきました。逆はありません。

樋爪会会員に配付された資料等のなかで、樋爪憲三会長さんの「能登・樋の爪物語」は、私たちにも参考になる大切な内容ですので、４・５頁に転載させていただきました。

能登・樋の爪物語

（昭和２０年代まで樋爪一族はひのつめ（さま）と呼ばれていた）

序　　章

≪奥州藤原氏の滅亡・樋爪一族の配流と逃亡≫

平泉は１０８９年～１１８９年の約１００年間にわたり奥州藤原氏の中心地として、中尊寺金色堂、毛越寺などを建て、京や鎌倉に引けをとらない都市として栄え、王道楽土を築いたが、源頼朝に理不尽な戦いによって滅ぼされた。太郎俊衡は頼朝に降伏後、この地に安堵され大荘厳寺に居住し、泰衡の子秀安を育て、自分の娘、瑋子を妻にさせたと伝えられている。一族は各地に配流されるも、紫波樋爪の地を秘かに離れ新天地を目指した主従小集団がいた。

第　二　章

≪新天地への移住定住・永い隠棲の時代≫

同時代、平家滅亡（１１８５年）後、平時忠（大納言清盛の妻時子の弟）は京都、琵琶湖、日本海から奥能登珠洲に配流される。義経、弁慶一行は安宅関から日本海、平泉に逃れる。

樋爪俊衡の子孫の小集団は紫波日詰の地より日本海富山から七尾北湾、穴水町中居の川沿いに新天地を求めたと思われる。その後、永い永い隠棲の時代を地元住人と同化共生し命をつないだ。

穴水町梶地区に樋爪町（村）と昔から呼ばれている一角がある。そこは日詰川の辺りにあり、民家６～７戸が建っているところである。

江戸末期、その地に樋爪という家があり、墓仕舞をして北海道へ北前船で移住していき、樋爪姓の家は無くなったと、古老が話していた。

裏山の斜面に残された墓石に樋爪家と刻んである。

樋爪町（村）は中居湾より１㎞ほど日詰川の川上にあり静かで目立たない土地である。また、その地一帯は耕地が少なく、分家して戸数を増やす余地がなく、隣地中世能登の有力豪族長氏の穴水城下に順次移住し、穴水町に樋爪姓が多くなったと思われる。

第　三　章

≪江戸加賀藩時代　雌伏の時代≫

樋爪一族は藩政下地元社会で農業漁業や地場産業にも進出し、徐々に力をつけ村役を務めるなどリーダー的存在となっていった。また、地元産業にとどまらず、天然の良港・中居より北前船による交易を行い、財を成していった。

後、廻船業から近代海運業への礎を築いた者もいた。

第　四　章

≪江戸末期より明治大正昭和、太平洋戦争までの時代≫

江戸末期より商工業に進出した樋爪直系、傍系は政財界で活躍した。江戸末期の商人、樋爪中七、穴水から伏木港で海運会社を経営した樋爪伊太郎、譲太郎、謹一三代親子、初代穴水町長、樋爪啓太郎である。
いずれも菩提寺である来迎寺にそれぞれの墓石群が残っている。お盆には毎年三家族のみならず、傍系直系問わず、それぞれの子孫や縁者の多くがお墓参りをしている。

第　五　章

≪太平洋戦争後の時代≫

全国の樋爪一族と同様、敗戦国日本はアメリカによる占領によって激変を余儀なくされた。
農地改革で農地没収。占領政策により産業資本、財産没収と能登の主な樋爪一族は没落し、戦後民主主義下でそれぞれ再出発している。
始祖、俊衡一族は頼朝によって能登の樋爪一族はアメリカによって滅ぼされたと言うべきか。

終　　章

≪樋爪館懇話会　樋爪会≫

奥州藤原氏の再評価の機運が高まり、地元樋爪館懇話会によって１０年にわたり調査研究が行われ、その実像が徐々に明らかになってきた。私たち末裔は今は浄土におられる始祖親子を時には偲び、時には敬慕し、御加護をいただきながら歩んでいきたいものです。
“樋爪会”は８００年の時を経て泥土で甦った「古代蓮」それぞれの地で美しい花を咲かせたいと願うばかりです。

古代蓮　一花のなかにある浄土　　三島黎子

樋爪会　会長　樋爪憲三

◎ 樋爪会の入会申込み受付中です。

樋 爪 会 事 務 局

〒 925-0005 石川県羽咋市滝町ワ31－1　樋爪憲三方

ＴＥＬ　０７６７－２２－６３９９

ＦＡＸ　０７６７－２２－６９３９

＊　＊　＊　比爪館跡周辺遺跡の発掘調査 No.23　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

【南日詰大銀Ⅱ遺跡―第1次～第3次発掘調査報告―】(11) ＜平成31年2月 紫波町教育委員会＞

Ⅳ　南日詰大銀Ⅱ遺跡　第３次調査　(47頁)

1　調査の概要

位置

紫波・稗貫衛生処理組合処理場敷地に隣接する北側の地点で、東西64.2m、南北14.2mを調査した。

検出遺構

竪穴住居跡１棟、竪穴状遺構跡１棟、掘立柱建物跡１棟、井戸跡７基、土坑跡14基、溝跡１条、柱穴 258口。

出土遺物

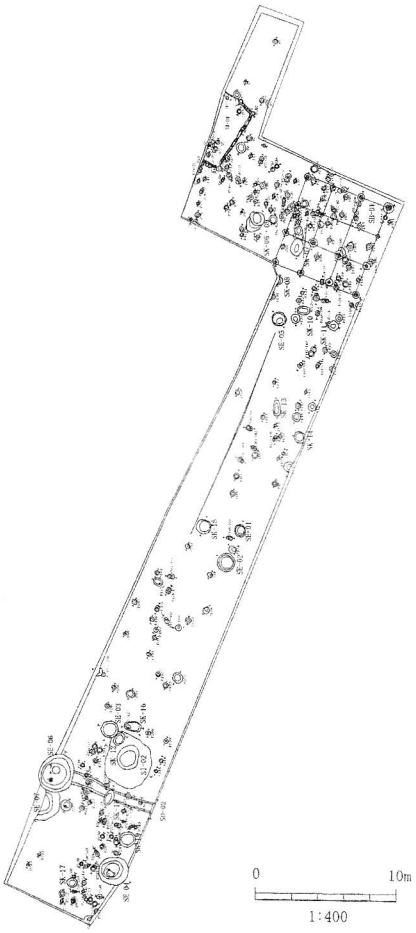
土師器、須恵器、かわらけ、国産陶器、中国産陶磁器、木製品、鉄製品、壁材、その他

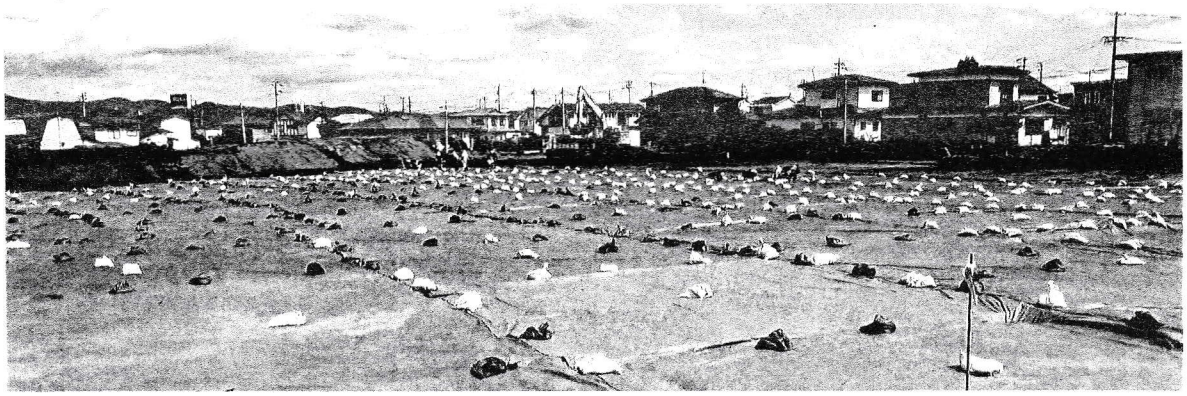
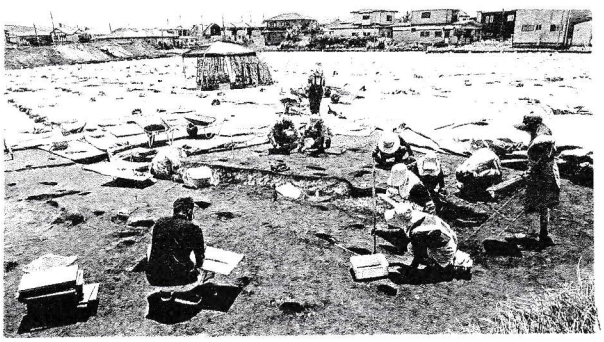
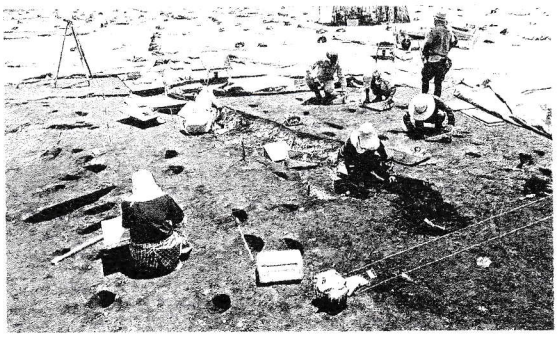
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

★　桜町中屋敷遺跡の発掘調査始まる。

樋爪館跡からほぼ真北方向約1.5km のところに所在する桜町中屋敷遺跡の発掘調査が始まりました。小学校の校庭ぐらいの広い区域で、紫波町教育委員会の発掘調査で最大級の面積と思われます。

道路から見た感じでは、既に遺構が検出されているようです。平成19年の発掘調査で、樋爪時代の道路跡と解釈される遺構が検出された才土地遺跡と同じように、樋爪館跡関連遺跡となる可能性が高いと推測されます。



第26図　第３次調査区遺構配置図

海だべがど思うたれば ホウ 桜町中屋敷の発掘調査の青いシート でした